
逆転

紺野智夏

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逆転

【Nコード】

N7572I

【作者名】

紺野智夏

【あらすじ】

初めてのデートに緊張する主人公が奮闘する短編。ギャグ。

真つ暗な部屋の中で、キーボードをカタカタと叩いていた。
もうすぐ日付が変わってしまう。

明日は、はじめてのデートで、緊張して眠れそうにない。

しかし時計の針が一時を指して、いよいよ不安になってきた。
いつもはこの時間はネットをしていて、寝付くのはほとんど朝だ。

「ヤバいな…昼夜逆転は治しておくべきだった」

性格に難あり、しかも重度のオタクの自分に恋人が出来るなんて、
こんなチャンス二度と無いかもしれない。だから絶対に、失敗する
わけにはいかないのだ。

「不安になってきた…」

『初デート』と入力フォームに打ち込み、検索をかけてみた。何万
件のホームページが表示され、そのなかでも「初デートの心得」と
表されたサイトを開く。

「ふむ…髪型には気を配るべし…か」

とりあえず、ボサボサの髪をなんとかしなければいけないと思う。
とりあえず後ろで縛ってみただけ、なんだか余計滑稽になったよう
な気がする。

「あとは…遅刻は厳禁、か」

やっぱり、今すぐにも寝て、早起きをすべきだ。そして早めに家を出て、なんなら髪を切りにいってもいいな。

目も頭も冴えきって居るけど、とにかく布団に潜り込んだ。

しかし興奮や緊張が絶え間無く遅い、頭は冴えてくるばかりだ。気付けばもう、2時を過ぎている。

「そうだ、本を読めば眠くなるかも」

本棚から、出来るだけつまらない本をひっぱりだす。

昔30Pで飽きた長編ファンタジーにしよう。

パラパラとページを捲る。主人公の運命は苛酷すぎる。運命に翻弄される主人公は可哀想だし、自分は何だかんだで平和な日本に生まれて良かったとおもう。次々に襲いくる不幸や敵。手に汗握る戦いや逃亡劇。そしてついに、主人公は亡き父の形見を取り戻したのだ……！！

「ああ…面白かった」

長編を読み終えた後の独特の充足感と喪失感に浸かり、一息ついてから時計を見ると、四時をまわっている。

「ヤバイ…なにしてた」

早起きは諦めよう。10時に起きれば間に合うし、六時間も寝れば十分なはずだ。

目をつむる。流石に四時ともあり、一瞬で意識が飛んだが、すぐに携帯電話の着信音に起こされる。時計をみたら、まだ五分もたって

いない。

「こんな時間に非常識な……」

起き上がろうとしたら着信音が途切れてしまったので、無視を決め込んでもう一度眠ることにする。目覚ましを10時にセットして、今度はゆっくり、気持ちよい眠りの世界へと旅立っていった。

目覚ましの音で目が覚めるた。6時間しか寝てないわりには、爽快な目覚め。普段は12時間なんてザラだから、自分の根性に少し感動する。いつもは昼夜逆転で、夜7時くらいに起きる生活なのに、やればできるじゃないか。

「よし、支度完了。」

早めに待ち合わせ場所にいたほうが良いよな。携帯をポケットにいれて、外に出る。

「あれ……」

空が妙に暗い。

「雨でも降るのか？それにしても、暗すぎるけど……」

おかしいな。異常気象か？

不安になって、携帯を取り出し、恋人に電話する。

「もしもし」

「は？何？」

「なんか天気やバいいね。大丈夫かな、遊園地」

「何いってんの…」

「え」

デートでしょ？

まさかデートの約束は、こっちの勘違い…なんてこと、ないよな？

「いや、遊園地…」

「おまえ…何いってんだ…？」

「だって、今日行こうって！」

「ああ、言ったよ？来なかったのはそっちだろ」

「なっ、行くよ！今から！だいたい待ち合わせは１１時でしょ？」

「……１１時だよ、昼の」

「だから、いま…か…ら…！？」

「もう閉まつてるから。ていうかなに、今まで寝てたわけ？おまえ俺の電話も取らないし、なんなの？付き合い切れないよ」

「えっ…だって、私ちゃんと目覚ましかけたし…なんで…！？」

「知らない。俺もう、おまえなんか知らないよ」

一方的に電話がきれた。呆然としたまま、着信履歴をみる。

「…………午後、四時…？」

自分の失敗に気付いて、私は頭を抱えたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7572i/>

逆転

2011年1月27日02時24分発行